

京都府みどりの食料システム基本計画（中間案）に対する意見の概要と対応について

1 パブリックコメントの状況

意見募集期間：令和4年12月22日から令和5年1月12日まで

意見提出件数：12人・30件

2 主な意見と対応

区分		意見	府の考え方	頁
環境負荷低減に関する目標	1	環境負荷低減活動計画の認定者数目標を高める必要がある	エコファーマーの認定数を基に設定しました。今後の認定状況を見ながら、改定時に再検討いたします	2
	2	有機農業のサポートについてもう少し記述をしてほしい	有機農業のサポートについては、施策の推進において税制・金融等の特例を追記します	2
環境負荷低減事業活動の内容	3	化学肥料や化学農薬を低減する取組の中に「慣行」とあるが、どのようなものか	用語の説明を追加し、本文及び用語解説を追記します	3
	4	温室効果ガス削減目標 40%以上削減については、京都府地球温暖化対策推進計画では46%以上に修正されている	46%に修正し、産業部門の数値も37%に修正します	4
	5	2号活動における温室効果ガスの排出量削減に資する事業活動がわかりにくいので具体的な解説をしてほしい	用語集を設け、具体的な解説を行います。また、別に定める「環境負荷低減事業活動の審査基準」に具体例を示してまいります	4
	6	省エネ型の機械やエンジン等を導入するとき、具体的にどのような省エネとなるのか具体的な記述をしてほしい	用語集を設け、具体的な解説を行います。また、別に定める「環境負荷低減事業活動の審査基準」に具体例を示してまいります	4
	7	生分解性マルチについて、事例を集めるなどして普及させてほしい	生分解性マルチは、3号活動にも記載しており、普及に向けて推進してまいります	5
特定区域の設定	8	特定区域の検討がされているなら記載してほしい	今後、設定に向けて市町村と検討を進めてまいります	6

活用することが期待される基盤確立事業の内容等	9	化学肥料低減のため、緑肥が効果的であるので、補助があるとよい	初めて導入される場合であれば、府の「小さなチャレンジ経営革新支援事業」をご活用ください	6
	10	新技術のうち育種技術にゲノム編集技術は該当するのか知りたい	ゲノム編集技術は、育種に有効な技術として該当しますが、京都府においては、慎重に検討を進めてまいります	6
	11	ゲノム編集や代替肉等に不安を感じる消費者もいるため、新技術が使用される食品に対する表示制度を設けて	京都府では、新技術の導入には安全性の確保が必要であると考えておりますが、表示制度は、国のJAS制度等の管轄となっております	6
	12	スマート技術の現地導入を進める際には、大学や企業などとの一層の連携を推進するようにしてほしい	大学や企業などとの連携を記載しており、今後も推進してまいります	7
農林水産物等の流通及び消費の促進	13	環境負荷低減で生産された農産物の消費拡大を図る上で、大きな可能性を持つ消費先の一つは学校給食と考える	学校給食利用は、市町村教育部局との連携が必要となりますので、今後、進め方などを検討してまいります	8
	14	有機農産物の学校給食利用など地産地消や食育の取組は重要なので、恒常的に行われる仕組みづくりを進めてほしい	有機農産物をはじめとする環境負荷低減事業活動で生産された農林水産物の地産地消や食育の取組を促進することを追記します	8
	15	有機農産物を学校給食用に使用するのは大変なので、フォロー体制を構築してください	学校給食利用は、市町村教育部局との連携が必要となりますので、今後、進め方などを検討してまいります	8
	16	観光客向け京都ブランドのオーガニック外食を展開してほしい	オーガニックも含め、環境負荷低減事業活動で生産された府内産農林水産物を小食や外食等の高付加価値商品として展開してまいります	8
	17	米やパン、野菜や肉も含めたオーガニックの輪をつなげる高いレベルの京都ブランドの展開を期待する	環境負荷低減活動を進め、京ものブランド農林水畜産物の中食や外食への展開を検討してまいります	8
	18	物価高騰等で家計が苦しい中、付加価値をつけても利用者層に隔たりが出るのではないかと懸念する	需要喚起や市場拡大をはかることで、多様な消費者へ供給を促進することを追記します	8
	19	有機農業などの生産者が生産意欲を保つためには、所得の確保が有用と考える	計画認定により付加価値の創出を行うことで所得確保を促進することを追記します	8
	20	消費者理解の促進のため、基本計画に京都こだわりマルシェ等の事例を紹介してほしい	取組事例を収集し、情報発信していくことを追記します	9

農林水産物等の流通 及び消費の促進	21	環境にやさしい農業を実践してきた農業者の声を吸い上げ、計画に反映する文言の追加してほしい	常に農業者のニーズを把握し、柔軟に施策に反映していくことで、取組を拡大してまいります	9
	22	消費者との相互理解を深めるため、消費者団体との丁寧なコミュニケーションを図る必要がある	消費者（団体含む）との交流を通じた理解促進を進めてまいります	9
	23	植物工場ではなく、自然環境下で有機栽培に取り組む農家の付加価値を高めたい	御指摘については、今後の参考とさせていただきます	9
その他環境負荷低減の促進等に関する事項、関連する府計画等	24	政策の推進に府独自予算について書かれていない	計画の推進を後押しするための府独自予算については、今後検討してまいります	9
	25	「京都府再生可能エネルギーの導入等促進プラン」を関連する計画に加えてほしい	御指摘のとおり追記いたします	9
	26	環境負荷低減を図るため、HACCP、GAPを更に推進する必要がある	GAP等の推進は環境負荷低減に資すると考えており、一層推進してまいります	9
全般	27	「持続的な」は行政的な表現に感じるので、「持続可能な」にしてほしい	御指摘のとおり修正いたします	—
	28	専門用語が多く府民にはわかりにくいので、用語集のページをもうけた方がよい	御指摘のとおり用語解説を追加します	—
	29	畜産でのバイオ発電や農業用水による小水力発電など生産者や生産組織が取り組み経営力を高める取組を進めてほしい	バイオマス発電につきましては、「京都府バイオマス活用推進計画」において検討してまいります	—
	30	天然物はイコール安全ではなく、評価指標が重要であることなど、リスクコミュニケーションを徹底されたい	御指摘については、今後の参考とさせていただきます	—